

会 議 名	第1回港区立精神障害者地域活動支援センター指定管理者候補者選考委員会
開 催 日 時	平成27年4月14日（火曜日）午後3時～午後5時
開 催 場 所	港区役所保健福祉支援部会議室
委 員	（出席者）八木原委員長、池谷委員、中村委員、青木委員、村山委員
事 務 局	加茂障害者福祉課長、鈴木精神障害者担当係長
会 議 次 第	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状の交付 3 保健福祉支援部長のあいさつ 4 委員自己紹介 5 委員長の選出 6 議題 <ol style="list-style-type: none"> （1）公募要項（案）について （2）第1次審査採点表（案）について （3）第2次審査採点表（案）について （4）その他 7 閉会
配 付 資 料	<p>[席上配付]</p> <p>資料1 港区立精神障害者地域活動支援センター指定管理者候補者選考委員会設置要綱</p> <p>資料2 港区立精神障害者地域活動支援センター指定管理者候補者選考委員会委員名簿</p> <p>資料3 港区立精神障害者地域活動支援センター指定管理者公募要項（案）</p> <p>資料4 審査方法について（案）</p> <p>資料5 第1次審査採点表（案）</p> <p>資料6 第2次審査採点表（案）</p>
会議の結果及び主要な発言	
【事務局】	<ol style="list-style-type: none"> 1 開会 2 委嘱状の交付 3 保健福祉支援部長のあいさつ 4 委員自己紹介 5 委員長の選出 <p>本委員会の委員長は、委員会設置要綱に基づき、外部の委員の中から互選で選出することとなっております。</p>
【B委員】	専門性とか中立性という点でA委員を推薦します。
【事務局】	ただいまB委員からA委員を推薦いただきました。 （全員承認）
【事務局】	では、A委員に委員長にご就任をお願いします。
【D委員】	<ol style="list-style-type: none"> 6 議題 <ol style="list-style-type: none"> （1）公募要項（案）について （事務局から説明） <p>様式22という第2次提出書類概要版ですが、概要版は何のために使うのですか。</p>
【事務局】	提案内容を一覧にして確認するためです。
【D委員】	事業者には、それぞれの様式をきちんと書いてもらったほうがいいと思います。

【事務局】	わかりました。
【委員長】	地域活動支援センターは、大体何人ぐらいを想定している事業ですか。
【事務局】	事業の人数は、事業者からご提案いただきます。今回開設時間も延長し、休館日も減らしています。その分、当然職員も必要になるため、どのような運営、職員の体制で配置するかは事業計画の提案事項になります。
【D委員】	施設長とか、業務分担はどこに書いてあるのですか。
【事務局】	様式12-1の管理運営計画に関することに含まれます。
【委員長】	職員の業務分担はどこに書かれているのですか。
【事務局】	様式12-1になりますが、分かりやすくなるよう修正します。
【E委員】	「公募要項」の2ページの指定期間のところに暫定施設への移動とありますが、これは提案時点では無視して考えていいという理解でいいのですね。
【事務局】	はい。
【委員長】	ほかにご質問ありますか。
【事務局】	様式22をなくすという点と、職員の役割分担について具体的な提案がいただけるような形で様式12を整理するという、この2点は事務局で調整させていただきたいと思います。
【委員長】	それでは、異議がなければ、議題1の港区立精神障害者地域活動支援センター指定管理者公募要項（案）については原案のとおりに決定します。 (了承)
【委員長】	(2) 第一次審査採点表（案）について 議題2の第一次審査採点表（案）についてです。事務局から説明をお願いいたします。 (事務局より第一次審査採点表（案）の説明)
【D委員】	自主事業計画というのが様式20ですが、ほかに提案事業というのがありますね。
【事務局】	条例に定めている事業で、事業実施に裁量の余地が少ないものが基本事業、条例に定めている事業ですが、裁量の余地があり事業者の創意工夫が活かせるものが提案事業です。
【委員長】	提案事業以外に自分たちがこれは入れていきたいという事業が自主事業になるわけでしょう。
【事務局】	そうです。
【委員長】	それについては、独立した採点項目にしてもよいのではないかと思います。
【事務局】	自主事業を事務局で調整し、様式を組みかえさせていただきたいと思います。
【委員長】	議題2の第一次審査採点表（案）は、議論のあった点を事務局で調整し、他は（案）のとおりということでよろしいでしょうか。 (了承)
【委員長】	(3) 第二次採点表（案）について 次に、議題3の第二次審査採点表の案についてです。事務局から説明をしてください。 (事務局より第二次採点表（案）の説明)
【E委員】	第二次の採点表の4番の総合評価は、どういう観点で評価すればよいのですか。採点の仕方を各委員で共通しておく必要があると思います。
【D委員】	審査項目と、それぞれの審査の視点とで審査していくことで良いと思います。
【委員長】	障害のある方たちと協働で活動していくという視点を入れていただきました

<p>【事務局】</p> <p>【D委員】</p> <p>【事務局】</p> <p>【E委員】</p> <p>【B委員】</p> <p>【E委員】</p> <p>【委員長】</p> <p>【D委員】</p> <p>【事務局】</p> <p>【委員長】</p> <p>【事務局】</p> <p>【委員長】</p> <p>【委員長】</p>	<p>いと思います。</p> <p>事務局で審査の視点を検討します。</p> <p>二次選考のプレゼンの際にどんな資料を求めるのですか。</p> <p>最初に出していただいた書類に基づいてプレゼンをしていただくこととなりますが、要項上は、委員会で追加の資料を求められることになっております。</p> <p>細かい審査は一次審査で書類上はできているので、2次審査は書類だけでは見られない意欲とか、代表責任者がどういう方なのかという人物評価も含めて行うことが必要と思います。</p> <p>例えば施設運営について書類上はこう書いてあるが、さらにプレゼンでこんな説明がされて、そうすればプラスだとか、逆に説明を聞いたらとマイナスというイメージで行うのですか。</p> <p>書類ではすばらしい提案であるけれど、よく聞いてみると実現できる体制になっていないのではないかとということなど、それをもとに2次評価は採点していただくということだと思います。</p> <p>他に質問は、いかがでしょうか。</p> <p>一次は文字だけで判断してくださいということですか。</p> <p>先ほど委員長がおっしゃったような、障害者に対する視点などは、2次評価の中で採点を行っていただくため、書類とプレゼンという2つの場面を設けてご評価をいただくという仕組みです。</p> <p>一次審査で足りないところに審査の対象を置くとすれば、これについてお話しくださいという形でも良いのではないですか。</p> <p>追加資料を委員の先生方から提案者に求めることは、2次審査において可能ですので、事務局を通じて対応します。</p> <p>わかりました。ほかにありますか。</p> <p>ご異論がなければ、資料6の第二次審査採点表(案)については、資料4の審査方法について(案)を含めて、原案に修正を加えるという形でよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(了承)</p> <p>(4) その他 (事務局より「4 その他」として、今後の選考委員会のスケジュールについて説明)</p> <p>7 閉会 それでは第1回港区立精神障害者地域活動支援センター指定管理者候補者選考委員会を閉会いたします。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	--

会 議 名	第2回港区立精神障害者地域活動支援センター指定管理者候補者選考委員会
開 催 日 時	平成27年6月9日（火曜日）午後3時分～午後5時
開 催 場 所	港区役所514会議室
委 員 員	（出席者）八木原委員長 池原委員 中村委員 青木委員 村山委員
事 務 局	加茂障害者福祉課長 鈴木精神障害者担当係長 櫻庭発達障害者担当係長
会 議 次 第	1 開会 2 議題 （1）応募事業者の財務状況分析・資金計画分析について （2）第一次審査について （3）その他 3 閉会
配 付 資 料	[席上配付] 1 財務状況分析報告書 2 資金計画分析報告書 3 第一次審査採点集計表
会議の結果及び主要な発言	
【委員長】	1 開会 第2回港区立精神障害者地域活動支援センター指定管理者候補者選考委員会を開会いたします。
【委員長】	2 議題 （1）公募事業者の財務状況分析・資金計画分析について 公認会計士、報告をお願いいたします。
【公認会計士】	【財務状況（総合評価）】 事業者A 「可」 事業者B-1 「可」 事業者B-2 「不可」 事業者B-3 「N/A」（分析不可） 事業者C 「可」 事業者D 「可」 事業者E 「可」 事業者F 「可」 B-3は平成27年4月に設立された新設法人で、財務数字がなく分析できないため、評価不能という結論です。 財務分析結果は財務規模、収益性、安全性、資金分析、成長性、リスク要因も含めて6項目の合計点です。 特記事項として、リスク要因で、マイナスを入れている何事業者かあります。リスク要因は、事業者から提出された資料において訴訟事案等の重要な偶発債務や継続企業に関する重要な疑義など、定量的な財務諸表数値に現れない懸念点が存在する場合に加味し評価しました。今回は、事業規模に対する資産規模が明らかに小規模な事業者がいることから、運転資金の捻出等のリスクを評価しました。Fは十分耐え得ると考え、マイナスはなし、Eはマイナス3点、ほかの事業者はマイナス5点という評点です。 財務規模に関しては、総資産、純資産、売上高、経常利益の金額の絶対額で、収益性に関しては、総資本経常利益率、売上高経常利益率、総

	<p>資産回転率、安全性は、自己資本比率、有利子負債依存度、剰余金比率、資金分析に関しては流動比率、売上高営業キャッシュフロー比率、手元流動性比率、成長性は、売上高の伸び率を基に得点化し 70 点満点中 15 点以下を不可としました。</p> <p>資金計画分析の結果は次のとおりです。</p> <p>【資金計画（総合評価）】</p> <p>事業者A 「B」 事業者B 「B」 事業者C 「B」 事業者D 「B」 事業者E 「A」 事業者F 「A」</p> <p style="text-align: center;">（財務状況分析・資金計画分析の説明終了）</p>
【委員長】	財務状況分析と資金計画分析について意見、質問ありますか。
【D委員】	リスク要因ですが、マイナス5やマイナス3は、どのぐらいのリスクですか。
【公認会士】	この事業規模に対して、この総資産で耐えられるかということに関しては、AからDまでは、難しいというのが正直な意見です。
【D委員】	マイナス5ということですね。
【公認会計士】	絶対だめですというのは、申し上げられないところがあります。
【D委員】	自分の組織の事業規模と、請け負う事業規模の乖離があるということですが、資金調達が必要になる場合、資金調達ができるか、今回の分析の中で分かるのですか。
【公認会計士】	財務状況という今の時点の情報でいうと、できないと思います。それが将来、どのように改善されていくかは、今回の分析の中では、本人に直接ヒアリングができないため、分析は難しいです。
【D委員】	わかりました。
【委員長】	議題1、応募事業者の財務状況分析・資金計画分析については、報告のとおりでよろしいでしょうか。
	（了承）
【委員長】	（2） 第一次審査について
【事務局】	議題2の「第一次審査について」の前に、事務局から説明があります。2点、説明します。
	1点目。受託経費の見積もりに関する採点ですが、区としてどの程度の金額を想定しているのか明らかでない中で評価するのは、委員の方から難しいというご意見をいただきました。本日、現在の事業実績を基にして算出した事業費用と各事業者の受託経費見積書比較の資料を用意しました。改めて、採点いただければというお願いが1点目でございます。
【委員長】	2点目、Cの様式11-1ですが、1ページ以内の制限があるところですが5ページあり、この採点の扱いについてご検討をお願いします。
	事務局からの2点について、受託経費については、改めて採点いただくことでよろしいでしょうか。
	（了承）
【委員長】	次に、Cの取り扱いですが、意見はありますか。
【E委員】	この項目は、センター運営に関する基本的な考え方で、提案の根幹をなす部分です。ここを採点しないということは、もうここは採用しないに等しい評価を行うと受けとめられると思います。
【D委員】	添付資料とすれば良かったものを中に入れ込んでいるものです。冒頭

【委員長】	<p>に書いてある内容が、事業者として言いたいことだとすれば、1ページ以内に収まる量なので、そこだけ捉えて評価すれば良いと思います。</p> <p>ではCの様式11-1も改めて採点を行うことでよろしいですか。</p> <p>(了承)</p>
【D委員】	<p>確認ですが、先ほどの資料にあった現行の事業実績に基づく事業費用を事業者は、知っていますか。</p>
【事務局】	<p>事業者には、現状の予算規模を提示しています。また、今年度と比べて、開館日や開館時間がそれぞれ拡大することも提示していますので、現状のものと変化した部分を、それぞれ事業者が勘案して出してきた事業費が、提案されている数字です。</p>
【D委員】	<p>この2項目も含め、採点をもとに評価を行っているので、先に採点をしたほうが良いと思います。</p>
【委員長】	<p>では、再採点し、集計後、審査に入ります。</p> <p>(了承)</p>
【委員長】	<p>(再採点・採点表回収・集計結果配布)</p> <p>第一次審査に入ります。事務局は説明をしてください。</p> <p>(事務局より集計結果配布・説明)</p>
【委員長】	<p>講評をお願いします。</p>
【D委員】	<p>集計結果では、6社ある中の3社で、大きく評価が分かれています。公認会計士の評価を勘案すると、先生方が評価した合計点の高い順では、B、E、C、F、A、Dになります。</p>
【委員長】	<p>ただ、Bは、公認会計士の指摘のように、3社合同のうち、1社が分析上は不可、1社は分析が出来ない、残り1社は可ですがD評価。なおかつリスク要因はマイナス5で、資金計画のほうも、B評価です。上位4社からBはず外れると思います。</p> <p>次の順番ではFですが、会計分析での評価は唯一のAであり、資金計画分析もAであり、リスク要因も0なので、Bにかわって、Fを第3位としても、妥当性はあると思います。</p> <p>この中で評価する点差を考えた場合、Bを除外すると、3位がCで、592点で、Fが509点、差が約80点です。5番のA社が406点です。E、C、Fが良いと評価しました。</p>
【委員長】	<p>私はBとCとEが良いという意見です。Bは、立ち上げたばかりで、経営面で不安ですが、かなり緻密な形で計画ができていると感じました。しかし、区内の地域性を把握しておらず、障害のある方たちとのコネクションのない中で、自分たちの持つ理想像で事業運営を進めると、地域と協働ができるのか不安があります。今までのキャリアがあるから自信もあるようですが、区の情報把握が足りていないと思いました。</p> <p>Cは、地域との協力体制に不安を感じます。当事者の社会貢献とかピアサポートという言葉は出てきますが、具体性が見えてきません。書かれている状況と実際とに乖離性が見られました。</p> <p>Eは、提案内容の中で、港区の情報が具体的に記載されていて、既存のものを継承していく方向性があります。一方で創意工夫を行わなければ、マンネリ化していく懸念もありませんでした。セルフヘルプグループの進め方、ピアサポーターの育成の仕方にも、計画性が欠けると感じました。</p> <p>Aは、地域福祉の視点が非常に弱いので、評価は低くなりました。</p> <p>Dは、1ページの枠になのに、四、五行しか記載がなく、具体的にどうするのかということがまったく見えませんでした。</p> <p>Fは、治療的プログラムが中心という印象です。地域に根差した施設</p>

<p>【C委員】</p>	<p>や、地域の利用者との関係、地域の総合的なネットワークという視点が見られなかったです。BとE、Cという順でした。</p> <p>順番からいえば、B、C、E、Fという順番で、AとDには厳しい点数をつけました。</p> <p>具体的な提案が少なく、応募に当たり十分な検討がなされていない印象を受けたのが、低得点の大きな理由です。</p> <p>上位4社の中で、財務状況はFが一番良好という点を勘案すると、Bをとるか、Fをとるかということになり、難しいです。</p> <p>3事業者に絞るとするのが難しいので、テキスト以外の実際の第二次審査で、プレゼンテーションの印象を加味したいので、二次審査は4社にするのはいかがですか。</p>
<p>【委員長】</p> <p>【C委員】</p> <p>【B委員】</p>	<p>提案ですね。</p> <p>はい。</p> <p>プレゼンを聞くというのも一つの案だと思います。現段階だと、Fは財務的にすぐれているが、企業活動の枠で施設の運営を行うという印象が強く、Bのほうは、財務面を除けば、記載内容は非常によく書かれていて、説得力もあります。港区でコミュニティに根差した活動に適合するには、専門的過ぎるかもしれませんが、精神保健福祉にすぐれた経験や知識を持っています。活動内容の提案は、BがFより優れていますが、私には評価し切れない財務ではFがかなり優れていて、評価が難しいところではあります。</p> <p>私は、3社を選ぶと、活動内容に重点を置いて、BとCとEですが、Fも、プレゼンで確認するのが良いと思います。</p>
<p>【E委員】</p>	<p>私は、Bには、高い点数をつけました。記載内容が詳細で、管理運営は評価できます。それに比べ、事業面は抽象的で理念的になっています。財務体質を併せて考慮すると実現性があるか疑問です。受託経費見積もりの中で、寄附金で600万円が計上されています。寄附金頼みの経費見積もりになっています。</p> <p>A、Dは、提案内容が貧弱です。</p> <p>Cは、記述内容は全体的に中身が薄い、具体性が乏しいという印象でした。Cはカウンセリング関係の研究会を行っていますが、全体的に自分達が研究しているものに引きずられている提案になっています。あいは一とという事業の目的と合うのか疑問です。この点をヒアリングで、聞いてみたいと思います。</p> <p>Eは、提案内容に具体性があります。地域の拠点としての計画についても、駄菓子販売して地域の子供達を呼び込む提案を行うなど、地域に開かれた施設にする方向性は評価できます。経費が高い印象もあるが、人件費を手厚く見積り、施設管理運営経費は、現状の予算よりは抑えています。配分すべきところに力を入れていく姿勢は、評価しました。利益率も5%程度と低く良い印象を受けました。</p> <p>Fは、全般的に着実な提案内容ですが、特徴がないというのが第一印象でした。指定管理者の抱負の記述が抽象的で、意欲が伝わってきません。また、利益率が、一般管理費が受託額の約10%と高くなっています。</p> <p>Bは、提案の実現の可能性と、今後5年間、継続して運営することを考え、財務評価を考慮するとC、E、Fの3社だと思います。</p>
<p>【委員長】</p> <p>【D委員】</p>	<p>B、C、E、Fの4社を二次審査の対象とするという意見があります。</p> <p>現時点で判断すると、いわゆる書面だけで、BかFのどちらかを選ぶこととなります。</p>

<p>【委員長】</p>	<p>Bの財務分析について、公認会計士が評価を非常に細かく書いていただいているので、財務体質の確認も、プレゼンの場で出来ると思います。Fは、財務状況は良いが、事業面の評価が低いのですが、実際に書面と考えがずれる場合もありますので、4社で良いと思います。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>BとCとEとFの4社を第2次審査の対象とし、プレゼンを通じ財務事情とか事業面での確認を含め審査を行うということでよいですか。 (了承)</p>
<p>【E委員】</p>	<p>続いて、議題3のその他の内容につきまして、事務局から説明をお願いいたします。</p> <p>(3) その他の内容 (事務局より、その他として第二次審査について説明)</p> <p>プレゼンテーションでは、内容を指定しないで、1次審査で出した資料に基づき、事業者は、強調したいところにポイントを絞ってプレゼンします。それに対して足りない点や、こちらが聞きたいところを質疑応答で補足してというのが、一般的なパターンです。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>プレゼンテーションは、自分が自己PRをしたいことがメインになってくると思うので、それで良いと思います。</p>
<p>【C委員】 【事務局】</p>	<p>プレゼンテーションの方法を提示しますか。 一次審査で提出した資料をもとに、その範囲内でやることを原則にさせていただけたいと思います。追加の提案が出てくると、また別の意味も出てきますから、特別なものを用いなくて、資料に基づいて行うことで進めさせていただければと考えております。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>わかりました。それで、よろしいですかね。 (了承)</p>
<p>【委員長】</p>	<p>3 閉会 それでは、これをもちまして、第2回港区立精神障害者地域活動支援センター指定管理者候補者選考委員会を閉会します。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>

会 議 名	第3回港区立精神障害者地域活動支援センター指定管理者候補者選考委員会
開 催 日 時	平成27年6月30日（火曜日）午後3時～午後5時
開 催 場 所	港区役所保健福祉支援部会議室
委 員 員	（出席者）八木原委員、池谷委員、中村委員、青木委員、村山委員
事 務 局	加茂障害者福祉課長、鈴木精神障害者担当係長、桜庭発達障害者担当係長、仲村
会 議 次 第	1 開会 2 議題 （1）応募事業者のプレゼンテーションについて （2）第二次審査について （3）指定管理者候補者の決定について 3 その他
配 付 資 料	[席上配付] ○ 第一次審査点数表 ○ 第一次審査点数表（内訳） ○ 第一次審査での意見 ○ 第二次選考採点表
会議の結果及び主要な発言	
【委員長】	1 開会 本日は第3回目で、指定管理者候補者の決定を行います。 （本日の委員会運営について、事務局から説明）
【委員長】	2 議題 （1） 応募事業者のプレゼンテーションについて （事務局より説明） 事務局から、本日の審査並びに指定管理者候補者の決定までの流れの説明でした。委員の方で確認はありますか。 （なし）
【委員長】	（2） 第二次審査について 早速ですが第二次審査に入ります。 （B事業者入室） プレゼンテーションを開始してください。 （B事業者 プレゼンテーション）
【委員長】	質問のある方どうぞ。
【D委員】	この施設において、地域とのかかわりで特に重要だと思うことをお話しください。
【B事業者】	地域のかかわりはとても重要だと考えています。一番地域で障害者に対し手立てをしているのが民生・児童委員さん、一番身近にいる方々にまずご相談をしながら、大使館など、日本以外のさまざまな機関もあることから、その方たちに協力を呼びかけて、地域の方々がおもしろい事業に参加できる仕掛けをつくり、障害があるなしにかかわらず、交流するような機会を設けることで、精神障害者を前面にアピールするのではなく、協働の

【B 委員】	<p>中で一緒に地域社会をつくっていくような形を行います。</p> <p>財務調査の結果を拝見するとかなり厳しいところがあります。財務的な部分についてどう考えていますか。</p>
【B 事業者】	<p>非常に設立の浅い法人が集まった共同体です。それも人材育成事業等をやっている事業で、相談支援は今年度4月から始めたばかりで、その点は非常に弱いと認識しております。ただ、私も含めてその事業規模として、大きな事業を経験した者であります。お引き受けした場合は、専門家のお力をかりながら、経理事務を含めて管理体制をしっかりとしていきたいと考えています。</p>
【B 委員】	<p>ピアサポート専門員で、実際に法人に登録されている方はいますか。</p>
【B 事業者】	<p>法人には本日同席している者も含めて2名雇用しています。</p>
【B 委員】	<p>事業の中で、ピアサポート専門員と連携していろいろなことを行う計画</p>
【B 事業者】	<p>ですが、人材はどのように集めるのですか。</p>
【B 事業者】	<p>現在、養成研修を、全国から30名ぐらいのピアスタッフの方々に集まっていたり行っていきます。その方の約3分の1が既に精神保健福祉士の資格を取り、ピアとして働きたいというご希望をお持ちです。そうした方々に声をかけつつ、昨年度開催されたピアスタッフの集いでは200人以上の方々が集まりましたので、人材は発掘できると考えています。</p>
【B 委員】	<p>港区で事業を行う場合、実際に来ていただける可能性のある人数はどれぐらいになりますか。</p>
【B 事業者】	<p>現在のところ、6人から8人ぐらいを予定しています。</p>
【F 委員】	<p>自主事業の出資計画の収入の部で600万円の寄附金がありますが、安定的に見込めるものですか。</p>
【B 事業者】	<p>自主事業の研修事業は、収益が出るものではないので、運営形態では、スポンサーとして各企業への働きかけを今後しなければならぬと考えています。今年度から3年間、企業の方の約束をいただいているところで、企業のほうでも検討を始めてくださっているところです。</p>
【F 委員】	<p>今回、3者でジョイントという形の提案ですが、これまで3者で組んで事業を展開されたことはありますか。3者間の役割分担や調整をどのように行っていくのかについてお聞きします。</p>
【B 事業者】	<p>基本は、申請している法人が全体的な取りまとめを行って行っています。今年の2月には、3者で一緒に全国研修、セミナーを行いました。精神関係の200人余りの方々が集まり、全体の進行管理はピアサポート専門員が担い、中の講師陣は主たる団体が担い、相談の具体的ところは、構成団体が担うという、役割分担をして実施しました。今回の事業計画についても、計画相談と地域相談については相談のプロフェッショナルが担い、地域相談については地域相談の得意なところ、基本事業についてはピアが中心に行っていく。それぞれ役割分担を計画しているところです。</p>
【委員長】	<p>高輪地区にある地域活動支援センターでは、こういった地域の人たちがそこに集り、どのような活動をされているか、リサーチについてはいかがでしょうか。今後、地域活動支援で何が最も必要だと思われていますか。何を最初に優先されるのか決まっていたら、教えてください。</p>
【B 事業者】	<p>まだ地域のアセスメント、地域診断はできていません。そこに居を置かないと、地域診断というのはなかなかできにくいなと感じています。最初の1年は、これまでの取り組みを丁寧に踏襲して引き継いでいくということを中心にしながら、計画にあるようなチャレンジングな事業にどう広げていくか、3年計画ぐらいで地域の中を広げていく。まず一番最初が地域診断だと思っております。引き継ぎにかなりの時間を要して、今までやっていることは最低限行わなければならないです。そして、地域の方々とは</p>

【委員長】	<p>う手を組んでいけるか、その引き継ぎの期間に検討しなければならないと考えています。</p> <p>プレゼンテーション及びヒアリングを終了いたします。 (B事業者退室・採点・C事業者入室)</p>
【委員長】	<p>プレゼンテーションを開始してください。 (C事業者 プレゼンテーション)</p>
【D委員】	<p>自主事業について、何を具体的に事業としてやっていくのか、端的にお話してください。</p>
【C事業者】	<p>運営している就労支援センターで、1人50分の時間を区切って、お話を聞きながら、少しずつやっていくという方向をとっており、それが就職のほうに行く確率が非常に高くなっています。地域生活支援センターの機能があり、併設して、普通のカウンセリングをできるような機関として、時間をとって、カウンセラーがお話をお聞きするというような体制をとりたいたいということです。</p>
【委員長】	<p>チームワークという点をかなり強調されていますが、地域の中でチームワークを組む場合にはそれぞれの役割が重要になります。カウンセラーの役割、ソーシャルワーカー、ピアサポーターなど、それぞれの具体的な活動における役割について、説明してください。</p>
【C事業者】	<p>自主運営プログラムの中で、いろいろな人といろいろなネットワークを組んでいこう、いろいろなところを見学するような自主運営プログラムを作り、参加者を募る形を取りながら、そういった方々との交流や、そこから触発してできてくるコミュニティーを作っていくという狙いは持っています。いつでも来ていただいて、いつでも見ていただいて、いい案を取り入れて、みんなの力でやるというようなものにしていきたいと思っています。</p>
【F委員】	<p>精神科リハビリテーションカウンセリング研究会を開催されて現在まで至ったということですが、これは一体どういうものですか。</p>
【C事業者】	<p>これは東京大学の精神科のデイホスピタルで、彼らの病気の状態をよくしたり、社会参加を可能にしたりするための大学の先生方と一緒に研究会です。精神障害者のある方が就労していくための方法論などを企業の方々、ハローワークの方々、当事者の家族会の方々、支援団体、医療、いろいろなところから来て取り組みをしている場所になります。</p>
【F委員】	<p>それが今回のあいはいの施設でも、どういうところで活かせるかお聞かせください。</p>
【C事業者】	<p>基礎的な人脈ができています。医療系に関しましては、医療系の先生方と夜間にすぐ電話で連絡とかをとれる状態があります。</p> <p>センターからも就労のことを考える方には、仕事事業団と密な連携をとりながら、私たちと関わりのある企業等もありますので、提携できるのから、そういうふうを考えて、少し載せさせてもらいました。</p>
【D委員】	<p>複合施設としての効果的な運営について具体的に言ってください</p>
【C事業者】	<p>別の施設が入っているということは、客観性をすごく持てるというイメージなので、協力をしながらやっていきたいという気持ちが非常にあります。</p> <p>あと、既存のプログラムを行っている団体とのおつき合いなど、十分に考慮して継続していきながら、この地域の中に私たちも入っていかせていただきたいと思います。学んでいくような、教えていただく姿勢で入っていき、協力をし合っていきたいという気持ちです。</p>
【委員長】	<p>(C事業者退室・採点・E事業者入室)</p> <p>では、プレゼンテーションをお願いいたします。</p>

	(E事業者 プレゼンテーション)
【D委員】	法人としての、あるいは事業運営をするに当たって目指すべき方向性というのは明確に理解できました。5年後の到達目標を具体的に説明してください。
【E事業者】	<p>創作的プログラムを行う、相談支援事業を行うということを踏まえた上で、支援センターの役割、一番メインの仕事は精神障害者が安心して来られる場所をつくることだと思います。日常の部分では、フリースペースをいかに安心できる場所にするかということ、それはまず職員の役割だと思っています。職員が率先して笑顔を見せて、利用者の方が来てよかったですようにすることだと思います。</p> <p>支援センターでは、当事者同士の人たちのトラブルなどあります。当事者同士の力で解決するのが一番ですが、まず当初5年間としては、「何か困ったことがあったら、いつでも声をかけてください。」と言うことと、私たち見ていますよと、職員が存在をアピールしてトラブルに対処していくことが、一番大切だと思います。</p>
【D委員】	今現在から5年後、何がどう変わっているか、お話しください。
【E事業者】	利用者が役割を持つことだと思います。やることある。ただ来て過ごすというのはなかなか難しいです。例えば、会報紙を一緒に作る時、会報紙を折るとか、今日は企画を考えようとかということをフリースペースで、利用者が役割を持って行う。対価を払う仕事ではないので、この仕事がいかに役に立っている仕事なのか言葉で伝えていかないと実感できないところでしょう。このようなことを日々繰り返し、利用者が役割を持つことが伝わり、フリースペースの形ができ上がると思います。
【B委員】	ピアカウンセリングに関してですが、ピアカウンセリングとしての互換性、片方はカウンセラーで、片方は聞いてもらうということではなくて、複数のカウンセラーがいたり、時には自分のほうがカウンセラーだけど、時には聞いてもらう側になるような、そういう広がりは考えていますか。
【E事業者】	<p>そこも一番やりたいことの1つです。ピアカウンセリングの事業としては、安心できる形で継続していきながら、ピアサポーターができそうな人、意欲的な方々を、ピアサポーター養成講座につなげて、力をつけていただくことを考えています。</p> <p>ピアサポーターとして力をつけた人たちを見て、ほかの人たちもそれをやりたいと思うようになっていく。ピアカウンセリングとして相談室で行うのではなく、フリースペースの場で自然に行われるようになる。今日は、私はピアカウンセラーで、ピアカウンセリングを受ける人ですというのではなく、いつの間にか助け合っているという形が、自然の形になるようにしたいと思います。その1つの方法として、ピアサポーター養成講座を考えています。</p>
【委員長】	ピアカウンセラーの発展ということで、5年後の、例えば数値目標とか、聞かせてください。
【E事業者】	ピアカウンセリングの5年後の数値目標はありませんが、5年後には、誰がピアカウンセラーという形ではなくお互いに助け合う場になっているというイメージです。利用者の方にはピアサポーター養成講座を通じて、最初は意識的に行動をしていただきますが、それを繰り返す中で、仲間の力が出るのがわかってきて、自然に助け合えるようになることを5年間で目指します。
【委員長】	(E事業者退室・採点・F事業者入室)
	それでは、プレゼンテーションを開始してください。
	(F事業者プレゼンテーション)

【D委員】	今から5年後、何をどう行うのか、何を目標にしていくのかとお話してください。
【F事業者】	まず、地域社会で、精神障害者の方に対する誤解が多いので、そのような誤解を解いていくということです。あと、精神障害になられた方については、周りからどう見られているかとか、自分はどう向き合っていけば良いのかということわからないため、社会に復帰したり、仕事につけない方が非常に多くいますので、まずしっかりと認識を持っていただいでほしいということと。1人でも多く通常の社会生活に戻れるようなことを、当施設で支援していくことを考えています。
【D委員】	受託経費の見積もりの中で一般管理費ですが、人件費関連プラス、プログラム運営費の15%という積算は社としての決まりですか。
【F事業者】	決まっております。通常20%が社としての大体決まりですが、今回、15%にさせていただいています。
【D委員】	その5%はどうして低くしたのですか。
【F事業者】	初めてこのような指定管理者の事業を行うということと、一般企業では20%を設定していますが、公営の施設ですのもう少し下げた形で提案することを、社で決裁を取りました。
【D委員】	当初は15%でやるけど、20%になる可能性もあるのですか。
【F事業者】	5年間について15%以内です。
【委員長】	生活習慣の管理プログラムなどプログラムについて事細かに書かれていますが、地域活動支援センターで行う管理プログラムと、精神科のデイケアで行うプログラムとでは、どのような違いがありますか。
【F事業者】	デイケアで行う場合には、生活の立て直しがイメージとしてあると思います。こちらの場合では、食生活の支援で栄養療法的な観点を導入しています。精神疾患の症状の発生する要因が体から来ている場合が幾つかあります。食事をアプローチし、生活の水準も上がって身体が安定すると、気持ちもよくなってきますので、そこに1つポイントがあります。
【委員長】	もう一つ、臨床心理士という心理の専門家が生活習慣を見ていくことです。実際に習慣はなかなか変わりません。一つ一つできることを積み上げていくというのは、誰にでもできるので、臨床心理士がかかわり、積み上げてできるようにしていく。できることが増えると、その人のパフォーマンスが上がります。気持ちも落ちにくくなり、外で活動ができる力がついてくる。よい習慣ができると、社会復帰がしやすくなるので、良い習慣が実現しやすいスタッフと、プログラムを用意しようと思っています。
【F事業者】	おっしゃることはわかります。しかし、地域で行うとき、ピアサポーター、ソーシャルワーカー、作業療法士、看護師、保健師など地域の方々のネットワーク、チームワークをどう構築するかが伝わってきません。このプログラムは、センターの臨床心理士だけが行う印象が強いので、地域での連携を説明してください。
【F事業者】	実際にはピアサポーターの制度は利用したいと思っています。人間は誰かから指示をされてもなかなか動きませんが、自分が気づいたりとか、自分に近い人の声かけがあったりすると意外とできるようになります。生活の習慣に関しては、指導者が全部指導するのではなくて、全体に知識を提供しながら、お互いが生活を改善するサポーターになっていく、そんな位置づけで考えています。
【F委員】	センターのキャパシティがありますから、安定してきた人は、ほかの社会制度、就労施設や、自立訓練の施設などと、連携してつなげていただくという形もできると考えています。
	プログラムについて、ベースとなっている医学的、心理学的な考え方、

【F事業者】	<p>全体の考え方をお聞かせください。</p> <p>システム的な考えで家族療法、社会リズム療法、行動活性化はその人が不安を抱かない形で少しずつ積み上げていくという意味で、行動活性化という表現を入れましたが、複数の考え方をもとにベースはつくっています。</p>
【F委員】	<p>これまで就労支援施設の運営を手がけられ、成果は上がっているのですか。</p>
【F事業者】	<p>実際の精神障害者の社会復帰は難しかったりします。就職ができて、なかなか定着できないなど、問題があります。就労移行支援施設を運営していますが、仕事が定着できるように変わっていかうということを中心にしています。それには習慣化が一番大きなポイントになっています。ベースとしての体力、心と体の体力をきちんとつけておけば、社会に出たときにも乗り越えていける。そういうエッセンスをやっています。</p> <p>(F事業者退室・採点・集計)</p>
【委員長】	<p>(3) 指定管理候補者の決定について</p> <p>事務局から二次審査集計表の配付がありましたので、選考を再開いたします。</p>
【D委員】	<p>では、委員の皆様の講評とご意見を伺います。</p> <p>Eは、施設利用者に寄り添う姿勢が感じられ、特に精神障害者の施設では、そこが一番大事なかと思ひ、評価としては高くなりました。</p> <p>Bは、3法人がそれぞれ役割分担を行うが、それで円滑に運営が行えるのか組織運営の心配と、地域アセスについて3年後を見定めて行う計画ですが、1年目、2年目はどういう運営を行うか不安があり、点数が上がりませんでした。</p>
【C委員】	<p>端的にあらわれたのは、複合施設としての管理運営の質問の回答ですが、C事業者は、今までの人脈とか、経験を業務の拠り所にしており、例えば複合施設としての管理等、拠り所から外れると、自らがどうするか具体的な提案がありませんでした。</p> <p>Fは、ピアサポーターについて、考えていない印象を受けました。また、営業的な印象が強く、利用者の状況に寄り添った感じがないたため、かなり評価は下げざるを得なかったところです。</p> <p>Bは、施設長予定者の方の印象は良いが、具体的な事業展開に関しては、やや希薄でした。数値目標は出すものの、それに対しての実現するための説明がありませんでした。ピアサポーター専門員の養成について随分時間を割いて率直に説明があり、非常に好印象でしたが、それしか目立たなかったというのが印象です。</p> <p>C事業者は、全体的に、就労支援に偏り過ぎていました。自主的な事業に関しては、カウンセリングの無料提供という計画をしていますが、カウンセラー報酬が2名で年間1400万円かかり、事業としての妥当性に疑問があります。事業の実現性とか、方向性でCの事業者にはかなり厳しい点数をつけています。</p> <p>E事業者は、具体的な5年後のイメージはありますが、それを実現するための行動計画が不十分です。しかし、あいは一ととの事業参加の経験や、事業経験知・実績が蓄積しているので、実現性についてはあると判断しました。</p> <p>Fは、各種事業の運営基盤は結構豊富なので、実際に事前の一次選考と同じく、手がたいという印象を抱きました。プレゼンテーションでは、相談支援に、具体的に踏み込んだ説明がなかったのが、マイナス点となりま</p>

<p>【F委員】</p>	<p>した。かなり実現性が高い、確実な運営を行うという印象を抱いたので、Fを高目に評価しました。</p> <p>Bは、まだ実際に事業を運営していない中で、地域性と言っても難しい面があると感じました。ピアサポートを重視していて、養成研修を行っているという説明でしたが、受講者をどう活用して育成していくのか伝わらなかったと思いました。私は二番手につけています。</p> <p>Cは、何回か委員の皆さんが事業内容について質問をされましたが、具体的な回答がなく、何をやりたい、やろうとしているのかが見えませんでした。東京大学の先生の話も出ましたが、それに引きずられる可能性があるという懸念と、施設長候補の方が学者肌という感じがして、もう少し泥臭さがある人のほうが望ましいと思うので、その面で伸ばしてない評価をしています。</p> <p>Eは、あいは一との近くで実際に事業に携わっていて手がたさがあり、この事業に対しての思い、熱心さが、意欲が一番高いと感じ、高く評価しています。</p> <p>Fは、ビジネスライクという印象を受けました。プログラムを強調していますが、利用者には、逆に疲れてしまったりするのではないかと。15%という利益率は、区全体から見ると決して安くはない利益率ですので、ビジネスという観点が全面的に出ているところがあり、Eを1番に推しています。</p>
<p>【B委員】</p>	<p>CとFは、独自のプログラムというか、考え方をもち、区内で地域のほかの関連医療福祉機関等との役割をどうつけていくのかわからない。全部自分のところで行うという印象で、組織的に機能的に動いて役割を果たしていくということは期待しにくいと考えました。</p> <p>Bは、財務的な部分の影響というのを無視できない不安があること、目標は非常に良く説得力はあるのが、それをどう実現していくのか十分に説得力を持っていないところがマイナスでした。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>Eは、今までやってこられた経験があり、ピアサポーター養成など、おっしゃっていることも必ずしもマンネリ化はしていないように聞き取れたので、今後についてもある程度の期待ができると思いました。</p> <p>B、C、Fに関しては、支援スキルはあるけれども、それをそのまま港区で使ったらどうなるのだろうということが心配になってしまったというのが正直なところ。しっかりとしたお膳立てがされていますが、地域の人たちとどのように連携をとっていくのかが見えませんでした。Bに関しては、プレゼン力はありますが、実際どう動いていくのかが見えてこなかったのと、地域とのアセスメントを3年もかけたら、あと何をやるのかという気がしました。</p> <p>Cは、他資源との連携がどのように結びつくのかという点や、それをどうやって地域で実施できるのかということがよくわかりませんでした。</p> <p>Eですが、言っていることはよくわかるのですが、もう少し具体的な行動を聞いたかったと思いました。</p>
<p>【委員長】</p>	<p>Fは、地域が見えにくくなっているというのが一番大きいところでした。講評をいただきましたが、意見の交換はありますか。なければ、これでよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(了承)</p>
<p>【委員長】</p>	<p>ありがとうございました。集計結果のとおり、指定管理者候補者はEに決定いたしますが、よろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(了承)</p>

<p>【委員長】</p> <p>【事務局】</p> <p>【委員長】</p>	<p>ご了承いただきましたので、Eを指定管理者候補者として決定します。 では、事務局から今後の予定を説明していただきます。 (説明)</p> <p>3 閉会 では、本日予定した議事は以上で終了いたします。</p> <p style="text-align: right;">以上</p>
--	---